

兵庫県立社高等学校第七十三回卒業証書授与式 校長式辞

柔らかな日差しと心地よい風が春の訪れを感じさせる今日の良き日に、兵庫県議会議員藤本百男様をはじめとしますご来賓の皆様のご臨席、卒業生の保護者の皆様のご列席のもと、兵庫県立社高等学校第七十三回卒業式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じますとともに本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました第七十三回生二百三十四名の皆さん。ご卒業おめでとうございます。職員一同、心よりお祝い申し上げます。

そして保護者の皆様、本日、お子様のご卒業を迎えられますことを職員一同お喜び申し上げます。誠にありがとうございます。本校入学以来三年間、生徒と共に過ごされた日々を思い出し、その成長を実感されていることと存じます。またその三年間、本校教育活動にご理解並びにご協力賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、昨年3月より新型コロナウイルス感染拡大が続き、今年度は皆さんの活動が大きく制限された一年でした。4月の遠足、6月の文化祭といった楽しみにしていた行事がなくなり、加えて県高校総体、甲子園予選、コンクールなど部活動の目標となる大会も中止が早々と決定し、6月の学校再開時にはどうすれば良いのか、何をすれば良いのか気持ちの持って行き場がなくなり、落ち着けるまで大変な時間を過ごしたと思います。それでも、皆さんとの面談を通して、前を向こうとしている気持ちが伝わってきて、できる事は何とかやっていきたいとの思いを強くしました。代替大会があるところでは、その大会で全力を尽くし、頑張る皆さんの姿を見に行きましたが、心打たれるものがありました。気持ちを切り替えて臨んだ2学期は、応援合戦のない体育大会をいかに盛り上げるか、遠足の代わりに学年行事をいかに楽しむかなどできる事に知恵を出し合い、カー杯取り組んでくれたと思います。唯一全校行事としてできた体育大会では久しぶりに皆さんの笑顔を見ることができたように思いました。そういった学校行事や部活動での頑張りは下級生に引き継がれていくものと思います。本当にありがとう。

各学科の活動に目を移せば、生活科学科は、臨時休業中も商品開発に取り組み、家庭で試作品を作ったという話も面談時に聞きました。販売したり披露したりする機会がなかなかつくれず、残念ではありましたが、それでも気持ちを切らさず取り組みを進め、地方創生政策アイデアコンテストでは2年連続の近畿経済産業局長賞を受賞し、全国大会での発表の機会を得るなど昨年の経験を活かしながら進化をしていることを示してくれました。地域のイベントも減少する中、食育活動や加東市の魅力発信を続け、社高校に生活科学科ありとの認識もさらに広まったことと思います。今後も後輩たちを見守っていただき、それぞれの道でご活躍ください。

体育科は、強化指定部を中心とした部活動で、大きな大会で結果を残すことが目標となっていますが、大会の中止が相次ぎ、気持ちの整理に困ったことと思います。

しかしながら代替大会や秋の選手権大会で勝負できた部の皆さんは、開催されたことへの感謝の気持ちと今まで応援していただいた保護者の方々への感謝の気持ちをあらためてもつことができたのではないのでしょうか。当たり前のことが当たり前でなくなったときほど回りの方々へ「ありがとう」という気持ちが出てきます。当たり前にできることがどれだけ幸せかを感じることができた皆さんは、今後進む道でその気持ちを大切に多くの人を幸せにできると思います。下級生に多くのことを伝えてくれた皆さんの今後の活躍を期待しています。

普通科の皆さんは、生徒会を中心にできなかった文化祭の代替に、九州豪雨災害への支援や加東まちづくりコンソーシアムとの連携によるモザイクアート制作など地域と連携し支えあうことの大切さを伝えてくれました。また体育大会の持ち方や遠足の代替学年行事で熱い意見のやりとりを通じてまとまりを感じさせる行動にとっても頼もしさを感じました。看護医療類型の皆さんは多くの活動が制限されましたが、課題研究を通して学びを深め、今後の活躍に期待を持たせてくれました。新型コロナウイルス感染拡大防止で制限が加えられた分、行事をどうしたらできるかを知恵を出し合っ
て考えることができたことはこれからの皆さんの人生に大きな財産となるでしょう。

そんな皆さんに、私がお世話になった校長先生が話された「たんぽぽは おちたところで はなひらく」という言葉を贈ります。タンポポの種は風に吹かれてどこへ飛んでいくかわかりません。それでも落ちたところに根を生やし花を咲かせます。皆さんは高校卒業を機に自らの進路を自らの意志で決めましたが、その場所でどうなるか、どうしていくかなど不安な気持ちも大きいと思います。そんなときは、その場所で自分の力を発揮するために何ができるか、何をするかをしっかりと考え、自分の力を開花させることを考えてください。花を咲かせるのが難しい場合は、いずれ咲く花のためにしっかりと根を伸ばしていきましょう。人生は思い通りにならないことの方が多いのですが、思っていたことが実現できる、花を咲かせるチャンスは必ず来ます。そのときに見事な花を咲かせることができるように自分磨きを続けましょう。そのためには自ら考え動き始めることが大切です。わからないことは確認する、不安なことは相談する、目標が決まれば準備するなど一歩を踏み出すことによって花を咲かせる準備ができていきます。今後歩まれる人生で、もし行き詰まったり、悩んだりするときはあれば「今は花を咲かせる準備中だ」と心に言い聞かせてできる取組を進めましょう。必ず花開くチャンスは訪れます。社高校での経験を糧に皆さんの花が開くことを心より願っています。それでは、いよいよ社高校を巣立つときが来ました。皆さんの健康と今後ますますのご活躍を職員一同祈念申し上げ、式辞とさせていただきます。

令和三年二月二十七日
兵庫県立社高等学校
校長 若浦直樹